令和七年度入学試験問題（教育学部／法学部／経済学部 経済・経営学科）

現代の国語
言語文化
論理国語
文学国語

（注意事項）

一、問題冊子は指示があるまで開かないこと。

二、問題冊子は十六ページ、解答紙は四枚あります。「始め」の合図があったらそれぞれを確認すること。

三、各解答紙の二箇所に受験番号を記入すること。

四、受験番号は、裏面の記入例にならって、マス目の中に丁寧に記入すること。

五、解答はすべて解答紙の指定欄に記入すること。

受験番号の記入例

A	B	D	E	G	H	I	K	L	M	P	S	T	W	Z

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

現代の国語

言語文化

論理国語

文学国語

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（60点）

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

（尹雄大『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。）

問1　傍線部A「「そうですね！」と「そうですか？」のあいだを縫うようにした「そうですか⁉」で応えるようにしている」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問2　傍線部B「どちらも私が引っかかるところは音のズレにおいて共通している」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問3　傍線部C「あなたは「そのように言うこと」によって何が手に入ると思っているのでしょうか」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問4　傍線部D「それを手に入れることで失ってしまうものがあるとしたら、それはなんでしょう」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問5　傍線部E「ここでいう繊細さは、互いに言語に依存したゲームを繰り広げるためのものでしかない」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問6　傍線部F「「完全に聞く」とは相手を完璧に理解することではない。わかろうと試みる状態のことだ」とあるが、それはどういうことか、本文の論旨を踏まえて説明しなさい。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（60点）

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

（山下範久「資本主義にとっての有限性と所有の問題」岸政彦・梶谷懐編著『所有とは何か――ヒト・社会・資本主義の根源』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。）

（注）　高温で物が燃えるときに、空気中の窒素（N）と酸素（O_2）が結びついて発生する窒素酸化物の総称。

問1　傍線部A「有限性の問題」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問2　傍線部B「「人新世」という概念がひろく人文学・社会科学にインパクトを与えている」とあるが、その理由を説明しなさい。

問3　傍線部C「有限性の壁が突然あらゆる人間にとって不可避なものとして迫りだしてくる」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問4　傍線部D「人間を人間以外のモノから切り離された存在だと捉える人間観が、人間を無限に開いたというわけだ」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問5　傍線部E「こうした存在論的体制の転換は、さまざまな窓を通して観察することができる」とあるが、ここでいう「存在論的体制の転換」とはどういうことか、本文の例を参考に、具体例を一つ挙げたうえで、説明しなさい。

問6　傍線部F「決して所有の客体とならない「人間」」とあるが、なぜ人間は所有の客体とならないのか、その理由を説明しなさい。

三　次の文章は、阿仏尼『うたたね』の一節である。作者は恋仲であった相手と疎遠になり、とうとう尼寺で出家をしたが、その相手のことを忘れられずにいた。これを読んで、後の問いに答えよ。（40点）

そのころ心地例ならぬことありて、命もあやふきほどなるを、ここながら①ともかくもなりなばわづらはしかるべければ、②思ひかけぬたよりにて、愛宕の近き所にて、はかなきやどり求め出でて、うつろひなんとす。A かくとだに聞こえさせまほしけれど、問はず語りもあやしくて、泣く泣く門を引き出づるをりしも、先に立ちたる車あり。前はなやかに追ひて、御前などことごとしく見ゆるを、誰ばかりにかと目とどめたりければ、かの人知れずうらみ聞こゆる人なりけり。顔しるき随身など、まがふべうもあらねば、かくとは思し寄らざらめど、そぞろに車の中はづかしく③はしたなき心地しながら、今ひとたびそれとばかりも見送り聞こゆるは、いとうれしくもあはれにも、B さまざま胸静かならず。つひにこなたかなたへ行きわかれ給ふほど、いといたう顧みがちに心細し。

かの所に行き着きたれば、かねて聞きつるよりも、あやしくはかなげなる所のさまなれば、いかにして耐へしのぶべくもあらず。暮れ果つる空のけしきも、日ごろに越えて心細く悲し。宵居すべき友もなければ、あやしく敷きも定めぬ十符の菅菰に、ただ一人うちふしたれど、とけてしも寝られず。

C はかなしな短き夜半の草枕結ぶともなきうたたねの夢

日ごろ経れど、訪ひ来る人もなく心細きままに、D 経つと手に持ちたるばかりぞ、たのもしき友なりける。「世皆不牢固」とあるところをしひて思ひつづけてぞ、うき世の夢もおのづから思ひさますたよりなりける。今日か明日かと心細き命ながら、卯月にもなりぬ。

（注）○愛宕……現在の京都市東山区あたりの地名。　○御前……貴人の通行を先導する者。
○宵居すべき友……夜ふかしをして語り合える友人。　○十符の菅菰……編み目が十筋ある、菅で編まれた敷物。
○「世皆不牢固」……『法華経』の一節。この世に、かたくてしっかりしているものは何もないという意。

問1　傍線部①～③について、文脈に即してそれぞれ現代語訳せよ。

問2　二重傍線部「ざらめ」について、例にならって文法的に説明せよ。

例　四段活用動詞「なる」の連用形＋過去の助動詞「き」の已然形

問3　傍線部A「かくとだに聞こえさせまほしけれど」について、「かく」の指す内容を現代語で答えよ。

問4　傍線部B「さまざま胸静かならず」とあるが、作者がこのような状況になったのはなぜか、本文に即して説明せよ。

問5　傍線部C「はかなしな短き夜半の草枕結ぶともなきうたたねの夢」とあるが、

1　この歌の句切れとして正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

（ア）初句切れ　（イ）二句切れ　（ウ）三句切れ　（エ）四句切れ　（オ）句切れなし

2　この歌は、作者の居場所がどのようであることをふまえて詠まれているか、説明せよ。

問6　傍線部D「経つと手に持ちたる」とあるが、このような行動をする作者の思いを説明せよ。

問7　『うたたね』と成立時期が最も近い作品を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

（ア）更級日記　（イ）十訓抄　（ウ）大鏡　（エ）落窪物語　（オ）太平記

四 次の【文章Ⅰ】は歴史書『三国志』、【文章Ⅱ】はそれに付された注（異聞録）である。二つの文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、この文章には設問の都合で返り点・送り仮名を省略した部分がある。（40点）

【文章Ⅰ】

劉備東伐呉、呉王求和、瑾与備箋。時或言「瑾別遣親人与備相聞。」権曰「孤与子瑜有死生不易之誓、①子瑜之不負孤、猶孤之不負子瑜也。」

【文章Ⅱ】

『江表伝』曰、瑾之在南郡、人有密讒瑾者。此語頗流聞於外。権報曰「子瑜与孤従事積年。恩如骨肉、深相明究。其為人非道不行、非義不言。玄徳昔遣孔明至呉。孤嘗語子瑜曰『卿

与孔明同産、且弟随兄、於義為順。何以不留孔明。②孔明若留ⓒ

従卿者、③孤当以書解玄徳、意自随人耳。』子瑜答孤言、『弟亮

以失身於人、委質定分、義無二心。弟之不留、猶瑾之不往也。』

④其言足貫神明、今豈当有此乎。孤与子瑜、可謂神交。⑤非外言

所間也。」

（『三国志』および注による）

漢末

（注）劉備　＝後漢末～三国時代の人物。四川の地に蜀を建国した。
呉　＝国名、三国の一つ。
呉王　＝呉の王、孫権。
瑾　＝孫権の臣下、諸葛瑾。
箋　＝手紙。
孤　＝わたし。
子瑜　＝諸葛瑾の字。
『江表伝』＝書名。
南郡　＝地名。
明究　＝理解する。
玄徳　＝劉備の字。
孔明　＝劉備の臣下、諸葛亮の字。
同産　＝兄弟。
委質　＝礼物を捧げ、仕官する。
定分　＝主と臣下の身分を定める。
神明　＝天と地の間に存在する神。
神交　＝心からの交わり。

問1　傍線部①「子瑜之不負孤、猶孤之不負子瑜也。」を、

（1）　書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

（2）　現代語訳せよ。

問2　傍線部②「何以不留孔明。」について、孫権はなぜ諸葛瑾ならば孔明を呉に引き留められると考えているのか、本文に即して答えよ。

問3　傍線部③「孤当以書解玄徳」は、「孤当に書を以て玄徳を解くべし」と読む。この書き下し文に従って、解答欄の白文に返り点を記せ。

問4　傍線部④「其言足貫神明、今豈当有此乎。」を、「其」と「此」が指すものを明らかにして現代語訳せよ。

問5　傍線部⑤「非外言所間也。」を、すべてひらがなで書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

問6　波線部ⓐ「不易」、ⓑ「為人」、ⓒ「若」の読み方を、送り仮名も含めてすべてひらがなで記せ（現代仮名づかいでもよい）。